

自身が手掛けた造形作品について説明する許さん

＝浜松市中区の市鴨江アートセンター



が、進路に悩んで天を仰ぐ友人を写した1枚。加熱して湾曲させた金属片を組み合わせた「悩みの形」は、進むべき方向の迷いを表現した。

静岡文化芸術大 留学生の作品展

17日まで中区

静岡文化芸術大デザイン学部(浜松市中区)の留学生2人の芸術作品展が10日、同区の市鴨江アートセンターで始まった。悩みや喜びなどの感情をテーマにした立体造形、絵画、写真計12点が並ぶ。17日まで。

出展したのはいずれも同大2年生の、韓国出身の許允碩(ホ・ユンソク)さんと中国出身の阮偉銘(ゲン・イメイ)さん。「焦(じ)れたい」と題したモノクロ写真は、許さん

涙を流す女性の横顔を描いた油彩画「光と影」などを手掛けた。

2人は、文化の異なる非日常空間での創作活動を支援する同センターの事業「アーティスト・イン・レジデンス」の利用者。